

議案第 23 号

東広島市指定文化財の指定名称の変更について

東広島市文化財保護条例（平成 19 年東広島市条例第 9 号）第 4 条第 1 項の規定により、東広島市天然記念物の指定名称を変更することについて、次のとおり提案する。

令和元年 7 月 25 日提出

東広島市教育委員会
教育長 津 森 毅

1 提案理由

東広島市文化財保護審議会から、指定名称の変更が妥当との答申を受けた物件について、文化財の指定名称を変更するため、この議案を提出するものである。

2 指定名称を変更する文化財

種 類	東広島市天然記念物
名 称	カスミサンショウウオ
員 数	1
指 定 年 月 日	昭和 61 年 11 月 5 日
所 在 の 場 所	東広島市一円
変 更 内 容	指定名称を「アキサンショウウオ」とする。

3 指定名称を変更する期日

令和元年 7 月 25 日

4 根拠規定

東広島市文化財保護条例

第 4 条 教育委員会は、次に掲げる区分に応じ、それぞれ要件を満たす文化財を東広島市文化財に指定（一略）又は選定（一略）（一略）することができる。

東広島市教育委員会教育長事務委任規則（平成 20 年東広島市教育委員会規則第 2 号）

第 1 条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（一略）第 25 条第 1 項の

規定に基づき、東広島市教育委員会（一略）の権限に属する事務のうち、法第25条第2項各号に規定するもののほか、次の各号に掲げるものを除き、教育長に委任する。

(1)～(9) 一略一

(10) 文化財の指定又は選定及びその解除を行うこと。

(11)～(12) 一略一

令和元年7月3日

東広島市教育委員会 様

東広島市文化財保護審議会
会長 脇坂光彦



東広島市指定文化財の名称変更について（答申）

令和元年7月3日付け、東広教文第137号で諮問のこのことについては、名称を変更することが妥当と認めます。

◎諮問物件

- 令和元年度 東広島市指定文化財名称変更諮問物件

種別	名称	種類	員数	所在地	所有者	変更予定の名称	変更理由
市天然記念物	カスミサンショウウオ	天然記念物	1	市内一円	-	アキサンショウウオ	学会の研究成果による

東広島市指定調書

- 【名称】 和名 アキサンショウウオ
学名 *Hynobius akiensis* Matsui, Okawa et Nishikawa, 2019
- 【種別】 天然記念物
- 【所在地】 東広島市一円
- 【内容】 両生綱有尾目サンショウウオ科サンショウウオ属アキサンショウウオ
- 【現状】 経過
天然記念物指定(カスミサンショウウオ) 豊栄町 昭和61年11月5日
市町合併による変更：種の指定・指定範囲変更(〃) 東広島市一円 平成25年4月18日
新種記載による変更：種の指定諮問(アキサンショウウオ) 東広島市一円 令和元年7月3日

東広島市指定調書：平成25年3月26日付より

カスミサンショウウオは、日本固有種。西日本に分布し、平地から標高1,000mぐらいまでに生息している。止水生サンショウウオの代表種である。分布域が局限され、その形態や生態は変異に富み、本種の分類は再検討が必要とされている。

新種記載・標準和名の新設

東広島市文化財基礎調査・動物調査両生類担当調査員大川博志は、現在も市域のカスミサンショウウオ調査を行っている。併せて、京都大学松井正文らとの共同研究でDNA解析などを行っている。これまでの調査で判明した結果に基づいて、分類の再検討が日本爬虫両棲類学会で行われた。

カスミサンショウウオ種群の8種(2019年6月4日新設)の標準和名が新設された。

本市の生息種は新種記載され、「和名 アキサンショウウオ 学名 *Hynobius akiensis* Matsui, Okawa et Nishikawa, 2019」と命名された。種小名、和名とも産地である広島県西部の旧名安芸に由来する。

生息地

本種の生息地は資料1・2のように限られている。近年、耕作放棄などによる湿地や水田、ため池の減少、また地球温暖化などの影響を受けて、生息地は荒廃し減少傾向にある。

明らかに消滅したと推測される生息地が9ヵ所(西条町2、八本松町4、黒瀬町2、豊栄町1)、その他、不明の生息地消滅も考えられる。生息地の状況から、本種は生息数の極めて少ない個体群と考えられる。

絶滅危惧種(選定は新種記載以前)

カスミサンショウウオは、環境省レッドリスト(2019年1月24日発表)の絶滅危惧Ⅱ類(VU)、絶滅の危険が増大している種に選定されている。全国的に個体数の減少が危惧されている。

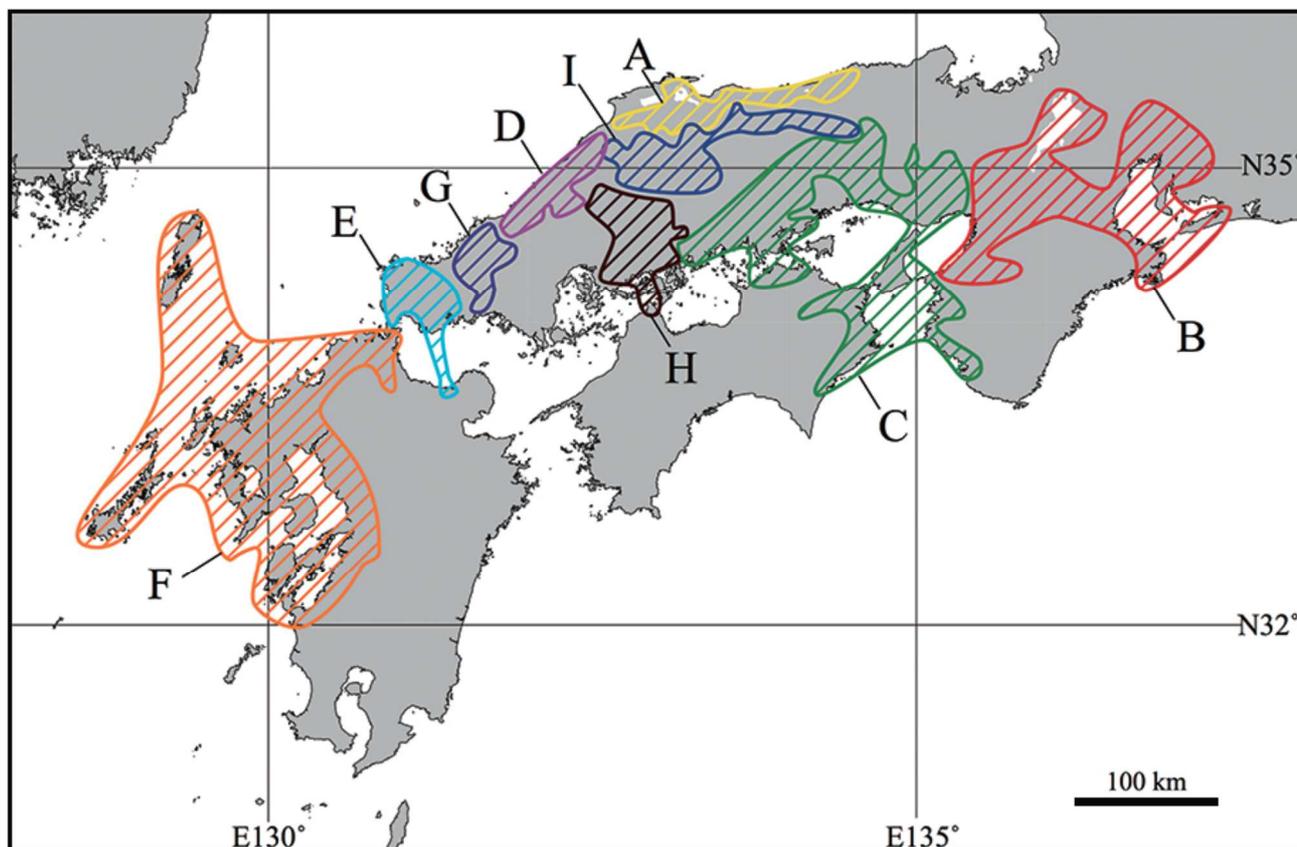
- 【所見】 市の天然記念物に指定されていた本種は、新種と認められアキサンショウウオと命名された。本種の生息域は狭小であるが、地域により変異があり、進化学や分類学だけでなく生態学的にも不明な部分は多い。全国的にも非常に特異な種で、本市の特色ある地形西条盆地を代表する動植物種の一つと考えられる。今後も市の文化財基礎調査動物調査・研究が期待される学術上貴重な種である。

今回の分類変更・新種記載により、天然記念物指定の本種の名称を「和名 アキサンショウウオ」とし、引き続き市の天然記念物として種の指定が望ましい。

また、生息地の環境保全、規制、市民への啓蒙、標本の保存などの早急な対策が望まれる。

【資料1】 (旧)カスミサンショウウオには地域による多くの変異があり、その中に隠蔽種が含まれているのではないかと考えられていた。今まで、大川らは何度かそのグループ分けについての提案を行ってきた。これは、形態・成体を中心に論じたものであった。2019年2月に日本爬虫両棲類学会誌(英文の国際誌)「CURRENT HERPETOLOGY」Vol.38(1)にDNA解析や、より詳しい形態解析をもとにした論文を発表した。これにより(旧)カスミサンショウウオは9種に分類され、2019年6月4日確定した。

【(旧)カスミサンショウウオから分類された9種の分布図】



記号の種名

- * (A) サンインサンショウウオ *Hynobius setoi* Matsui, Tanabe et Misawa, 2019
- * (B) ヤマトサンショウウオ *Hynobius vandenburghi* Dunn, 1923
- * (C) セトウチサンショウウオ *Hynobius setouchi* Matsui, Okawa, Tanabe et Misawa, 2019
- * (D) イワミサンショウウオ *Hynobius iwami* Matsui, Okawa, Nishikawa et Tominaga, 2019
- * (E) ヤマガチサンショウウオ *Hynobius bakan* Matsui, Okawa et Nishikawa, 2019
- (F) カスミサンショウウオ *Hynobius nebulosus* (Temminck et Schlegel, 1838)
- * (G) アブサンショウウオ *Hynobius abuenis* Matsui, Okawa, Nishikawa et Tominaga, 2019
- * (H) アキシサンショウウオ *Hynobius akiensis* Matsui, Okawa et Nishikawa, 2019
- * (I) ヒバサンショウウオ *Hynobius utsunomiyaorum* Matsui et Okawa, 2019

《注》 *印：新種記載のため和名新設

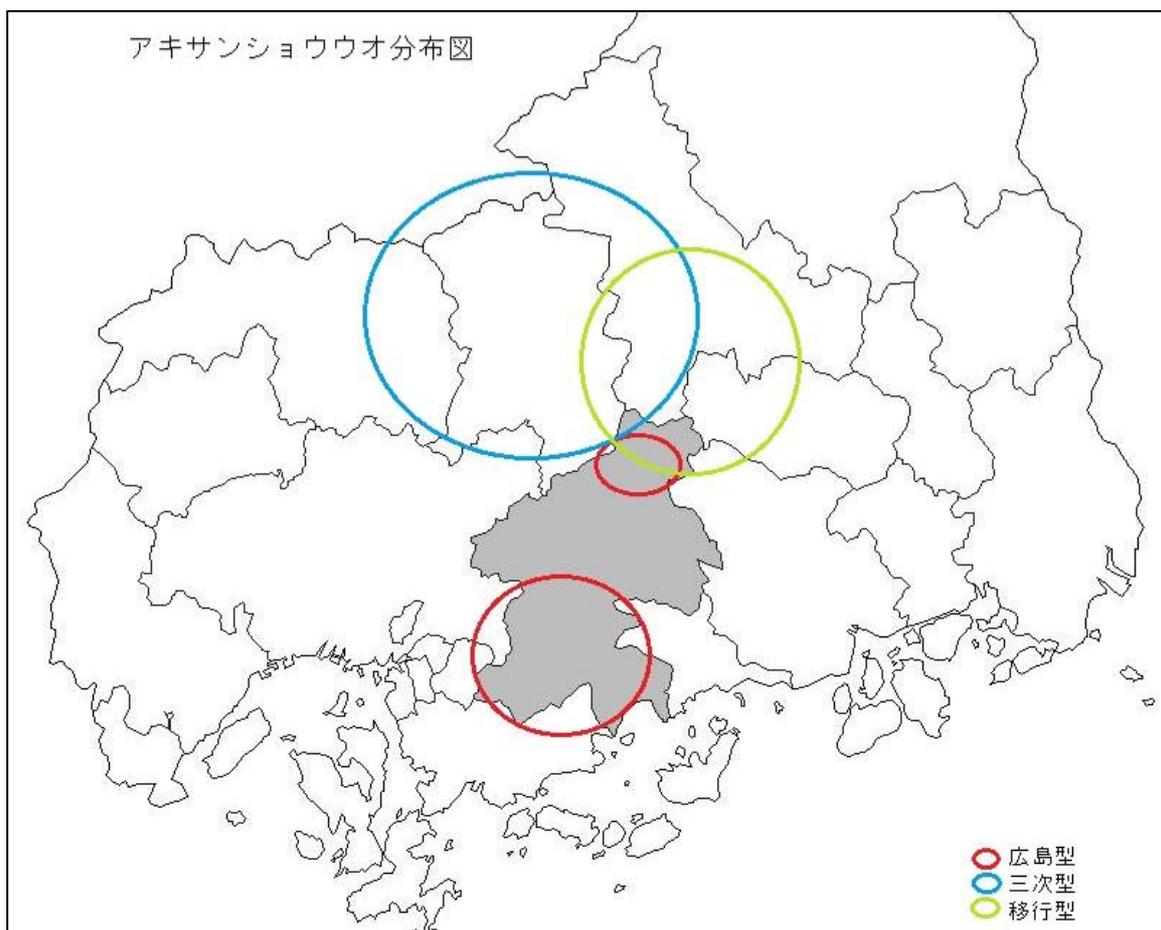
(B)：学名は、カスミサンショウウオの異名とされていた

《引用文献》 「CURRENT HERPETOLOGY」 Vol.38 (1)

Systematics of the Widely Distributed Japanese Clouded Salamander, *Hynobius nebulosus* (Amphibia: Caudata: Hynobiidae), and Its Closest Relatives

Masafumi MATSUI^{1*}, Hiroshi OKAWA², Kanto NISHIKAWA¹, Gen AOKI³, Koshiro ET⁴, Natsuhiko YOSHIKAWA⁵, Shingo TANABE⁶, Yasuchika MISAWA⁷, and Atsushi TOMINAGA⁸

【資料2】 アキサンショウウオの生息域は狭小であるが、地域による多くの変異がある。特に西条盆地から黒瀬にかけて生息する個体群は、他地域と隔離されているため独自の進化を遂げているのではないかと考えられる。
今後も調査研究の継続を行い分類の解明を必要とする種である。



【資料3】 アキサンショウウオ(東広島市)



《参考文献》 大川博志. 奥野隆史. 宇都宮妙子. 2019. 西日本のカスミサンショウウオの3つの大きなグループ. 爬虫両棲類学会報 2019(1) : 9-21

調書作成者：大藤由美子・大川博志